

伝えよう つながろう 夢に向かって

NO.9 (2024.10.24)

□令和6年度第3回学校運営協議会

第2回学校運営協議会は浜ろうフェスティバル(9月21日実施)への参画及び参加とし、第3回学校運営協議会は、その振り返りです。今回は8名の委員全員が参加していただき、意見交換をしました(10月21日実施)。

まずは学校の振り返りです。

「占いの館」を担当した生徒の感想・・・

『占いの館の準備が終わるのが当日の朝くらいだったので大変でした。でも、衣装づくりや看板作りが特に楽しかったです。』『フェスティバルはとても楽しかったし、「浜ろうさいこう」でした。』『すごいと思ったのは、司会の〇〇さんが堂々としゃべっていたことです。』や、

33名のボランティアからの感想・・・

『今まで耳が聞こえづらい方と関わることがなかったのに、ボランティアを通して関わり、相手が受け取りやすい伝え方を考えながら活動することができました』『ブースの看板の色やポップ字も素敵でした。かき氷、お茶もご馳走様でした。皆様の笑顔に元気を頂きました。やっぱり「(*´▽`*)」♡はまるうさいこうです。』を紹介したのちに、学校としての振り返りを、
○地域への情報発信の成果として予想以上の来場者があった。

○高校生・大学生のボランティアの参加で、中高部生徒は同世代の仲間との交流をもつことができた。生徒に主体的な動きが見られた。

●危機管理・安全管理の徹底

●準備期間の短さ

としました。そして、来年度も同じような形式で「生徒と地域が協力した持続可能な浜ろうフェスティバル」を企画したいと報告しました。

□委員からのご意見(来年度に向けて)

- ・生徒企画・運営した「占いの館」や司会進行をした生徒は素晴らしかった。褒めたい。生徒が主体的に取り組めたことが成果ではないか。
 - ・地域の聴覚障がいのある子どもたちへ、本校の生徒の生き生きした姿を見せるという目的をもってくと良いのではないか。
 - ・テスト期間中でも、高校生がボランティアとして参加している。募集方法が良かったのでは。
 - ・福祉機器展示等では、「リハビリテーションカレッジ島根」の学生がボランティアをしてくれるとよいではないか。声をかけてほしい。
 - ・食によって交流が深まった一方、食べられない方もたくさんいた。食の調達やブースの準備という観点から、目標来場者数(見込み数)を設定し、対応すると良いのではないか。
- などのご意見をいただきました。

